

【目的】経カテーテル大動脈弁留置術（以下 TAVI）では、留置の際3つの cusp が揃っていることが必要である。当院では術前に CT によって出した最適角度を術中のファーストショットに使用している。そこで、CT の最適角度が術中の最適角度と一致しているかどうかその関係性を調べた。また、CT と術中の角度それぞれどのような傾向があるかを調べた。【方法】当院で行った TAVI 連続32症例に対して CT 画像を使用し Cusp が揃っている角度を出し、術中のアーム角度との差を算出した。CT と術中で出される角度を左右、頭尾方向に分けそれぞれの角度を平均で算出した。【結果】CT と術中で使用された角度では左右 6.1 頭尾 10.4 の差異があった。そのうち RA06.6（13 症例）、LA05.6（19 症例）、CRAN8.5（17 症例）、CAUD10.3（15 症例）のズレがあった。CT の傾向は、LA010.9（19 症例）、RA07.7（13 症例）、CAUD7.7（17 症例）、CRAN7.5（15 症例）であり、LAO 方向が選ばれることが多く頭尾方向に関しては差がなかった。術中角度の傾向は、LAO13.4（23 症例）、RAO11.5（9 症例）、CAUD12.3（26 症例）、CRAN6.6（6 症例）であり、LAO 方向が選ばれた CAUD 方向が選ばれることが多かった。【結論】CT と術中で使用される角度は差異があった。特に、頭尾方向に関して多く出た。CT と術中の角度共に LAO が多く頭尾方向に関しては術中で CAUD が多く選ばれ CT では CAUD と CRAN はほぼ半々である傾向にあった。